一斉法要のご報告

【平成二十四年】

六月二十四日、二十五日　盂蘭盆施食法会

法話　光真寺副住職（当時）黒田泰弘師

例年、二日間にわたって盂蘭盆施食供養が厳修されます。初日は今年初盆をお迎えする方々の初盆供養の日。翌日は檀信徒各家の供養を午前と午後に分けて二座行います。

お寺に大勢の方が一同に会するご供養は、身近で大切な方を亡くされた方々が、経験を共有する一時でもあります。時に笑い、時に涙を浮かべ大切な方を偲び、縁の不可思議さを感じながら今を生きる力を宿していただければと願います。

ニュース・アラカルト

九月二十日　秋彼岸法会

法話　長泉寺住職　水庭浩章師

今日彼岸、菩提の種を蒔く日かな。

午前・午後あわせて五百名以上の方が、心に菩提の種を蒔きに参拝されました。

【平成二十五年】

一月九日　新年祈祷会

法話　善光寺院代　前平武男師

先代方丈から教えて頂いた道元禅師のお言葉

ニュース・アラカルト

「身を削り　人に尽くさんすりこぎの　その味しれる人ぞ尊し」「仏道をならうというは自己をならうなり。自己を習うというは自己を忘るるなり。」などを紹介しながら、現博志方丈の理念「来者如帰＝来るもの帰るが如し」につながる善光寺の流れをお話されました。

最後に皆さんでお唱えをした「慈悲の瞑想法」も好評でした。

三日　節分追難法会

法話　萬松院住職　安藤道隆師

「有り難し」と題してお話しを頂きました。当たり前と思っている事こそ、有り難い事。

「生きてるだけで丸儲け」

道隆師の何事にもいつも明るく前向きな姿勢の原点を垣間見るお話しでした。

ご祈祷の後は恒例の豆まき。今年も友綱部屋の魁聖(かいせい)関による力強い豆まきが行われました。

福はうち～!!

ニュース・アラカルト

十八日　春彼岸法会

法話　多福院住職　島崎義孝師

「仏教の為の仏教ではだめ。生きていく支えになるための仏教を学ぶ。学んだ事をどのようにして社会に生かしていくのかが問われる」。

善光寺留学僧育英会、第三回育英生の島崎師は、アメリカ留学の際に初代理事長大圓武志大和尚にそう激励されたそうです。島崎師は現在大阪府にある藍野学院にて教鞭をとられ、次代を担う学生たちに仏教の素晴らしさを示していらっしゃいます。

ニュース・アラカルト

光真寺三十八世光忍泰弘住職　晋山結制

昨年十二月五日、六日、光真寺さまでは三十七世光純俊雄大和尚本葬儀にあわせて黒田泰弘住職の晋山結制を厳修されました。善光寺からは住職・倫子御母堂・熊谷筆頭総代他三名が随喜参列させて頂きました。

西堂（白槌師）には本寺・矢板市長興寺細川順道老師。首座は泰弘住職の長男、敬仁上座。弁事は三男、祥弘さんが務められました。

ご縁の深い方々での盛儀に参列者一同感銘を受けられました。

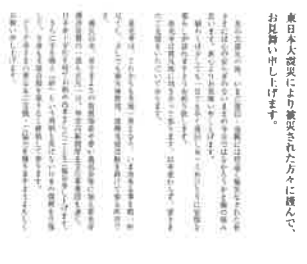
ニュース・アラカルト

震災義捐金の御礼

東日本大震災直後に皆さまからお寄せ頂きました「震災被災者義捐金」は、曹洞宗ボランティア（SVA）を通して現地に寄付させて頂きました。

日本赤十字社から「金色有功章」を頂きました

宗教法人 善光寺様
日本赤十字社に対し長期
の社資を寄せられ本社
事業の運営に多大の貢献
をされました
その御功労に対し感謝の
意を表して金色有功章
を贈ります
平成二十四年七月二十四日
日本赤十字社



東日本大震災により被災された方々に謹んで、
お見舞い申し上げます。

継続しての支援を続けるため皆さまよりお納め頂きました護持会費の一部を神奈川新聞厚生文化事業団を通し日本赤十字社へ寄付させて頂きました。

個人の支援も含め善光寺としての支援も継続して参りたいと思います。ご報告と併せ、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

ボーイスカウト参禅会

毎年恒例のボーイスカウト参禅会が二月十七日（日）釈迦殿にて行われました。今年は、保護者の方も大勢参禅頂きました。

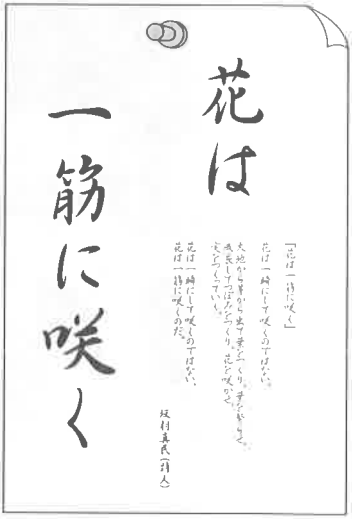
三十年以上継続している坐禅会。当時子供だった方も成長して大人になって再び参加される方もおられます。時の流れと、継続の大切さを感じ、坐禅に親しみ、心穏やかな生活をされる一助となればと改めて思います。

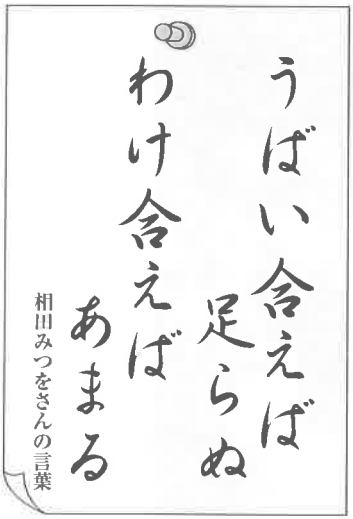
善光寺　掲示板

大駐車場の前にある掲示板には、毎月恒例の坐禅会や写経会、書道教室のご案内に加えて山内の行事予定や禅語などを紹介しています。

そこに掲示している禅語やちょっと目を引く言葉には、日野公園墓地にお参りに来られた方々も足を止めて見ていかれます。

ニュース・アラカルト





大雄院ご一行様来山

平成二十五年四月十日、群馬県桐生市の大雄院様ご一行が善光寺にご来山。拝登諷経を挙げられました。

今回の御来山はこの度、大本山總持寺授戒会に橋本恵一住職が焼香師を務められ、その帰路に善光寺まで足を延ばしての参拝。

ご一行は、お祝いに随喜同行された御寺院様方と大勢の檀家の方々が大型の観光バス三台に分乗して来られました。拝登諷経して頂き、その後しばし寛いで頂きました。

善光寺からは昨年、光真寺参拝旅行の際にお参りをさせて頂きましたが、橋本老師ご夫妻の暖かいお人柄に心温まるひと時を過ごさせて頂きました。

ニュース・アラカルト

黒田博志住職に第一子誕生

平成二十五年一月十六日、住職夫妻に待望の第一子が誕生しました。三一八四グラムの可愛い女の子。名前は樹里（じゅり）ちゃん。

住職は、「子が産まれ親にならせて頂く事で、親の有り難さをあらためて実感する」と言いながらも、早くも目の中に入れても痛くないとメロメロです。

健やかな成長を祈念申し上げます。

ニュース・アラカルト

五世紀菩薩像
中國敦煌二十五窟

善光寺講座「論語からのお話」

善光寺では月に一度「論語からのお話」と題して講座を開催しております。講師は東郷敏先生。参加費無料。どなたでもご参加頂けます。

回を追うごとに参加人数も増えています。ご家族やお友達を連れて来られる方もいらっしゃいます。楽しい講座です。お気軽にご参加下さい。

「論語からのお話」について

善光寺院代　前平　武男

昨今はテレビ、新聞、雑誌に頻繁に載せられる論語。関連本もたくさん発行されブームだと言う人もいます。社会現象だという人もいます。それは何故でしょうか？　日本では飛鳥時代より一千三百年以来、文化の重要な役割を担ってきたのが漢字と諺（ことわざ）の文化でした。

昨今は「電子頭脳（コンピューター）」のお陰であらゆる場面で、考えたり、学んだり、計算したり、頭と心を遣う習慣が微くなりました。「容易さと楽さ」に引きずられ、大事な心の遣いかたまで喪失の危機に直面するような危惧が現れてきたと色々なところで報じられています。

科学技術は日進月歩。しかし心と精神の文化は何千年も置き去りにされ、取り残されたままになってしまっています。孔子はズバリ、人間的成長は「温故知新＝故きを温ね、新しきを知る」と喝破されています。遠く彼の時代である二千五百年も前の時代に諭されているのです。

今の時代もタイムスリップしたかのように同じ事が言われています。

論語は孔子一人が書き残したものではありません。当時の多くの人たちや弟子たちとの対

話・問答によって夫々、人としての考え方の標準や基準を教え諭し、私たち日常茶飯事の中に導き出しているのが、いわゆる論語学習の起原なのです。

東郷先生はお話の中で、

「私たちは生まれてこのかた等しく生かせていただいている存在なのですが、しかし、幸不幸必ずしも等しく与えられたり報われたりしていません。生きていることは平坦ではないのです。日々刻々、無常にもいろいろな問題や障害に遭遇し、『こんなはずではなかった』『どうすればいい。』ハッと気づいた時はいつでも遅すぎています。

人生一本筋なら唯歩いて行けば良い。しかし途中二本に分かれ、無数に分かれてくる。その時、さぁどうするか？　どちらに行くか？　止まるか左か右か判断に迷うところです。時に聖

者の標準なり規準があれば照じて判断が容易になり救われます。いかにも論語は人のみちしるべなのです。」
と語りかけられます。

是非、みなさまこの機会を捉え、故きを温ねてみませんか。

過去と他人は変える事は出来ません。しかし自分と未来は変えていく事が可能です。この会がきっかけになればと切に思います。

笑いのうちにアッという間に一時間が過ぎていきます。善光寺との距離が近く、親しく感じられる会となっております。

東郷先生曰く「論語のお話はスルメと同じです。古めかしく、始めは少し固いようですが、噛んでしばらくすると味が滲みでて、次が欲しくなるのです。ロンゴスルメの妙味です」と。

参加者は老若男女多岐に亘ります。論語の知恵を職場や家庭、生活で活かせるよう解説をして下さいます。共に学び習いましょう。

子曰　學而時習之亦説乎。
有朋自遠方来不亦楽乎。
人不知而不慍不亦君子乎。

（學而第一）

子曰く、学びて時に之を習ふ亦説ばしからずや。
朋、遠方自り来る有り、亦楽しからずや。
人知らずして慍らず、亦君子ならずや。